

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせて目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	利用者様一人一人の役割、楽しみごとの支援が出来ない方で分かれていた。一人の時間が好きな方も全体で楽しめる支援や役割を見つけて支援していく	本人、ご家族様からの希望を聞き、実現に向けたケアを行う。	半年に一度モニタリング、アセスメント、ご家族様への聞き取りを行いケアプランに反映して生活の質の向上、楽しみを増やす。	12ヶ月
2	12	法人内での研修や勉強会の開催が難しかった。	代表者は管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニング等をしていく等を進めている。	法人内での研修を行い、職員の知識の向上と技術の向上をする事で自信を持って仕事ができる様にしえんする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

自己評価及び外部評価結果

1. 事業所概要

事業所番号	1192400065	実施年度	令和6年度
法人名	株式会社あったかホーム		
事業所名	あったかホーム毛呂山		
所在地	〒 350 - 438 埼玉県入間郡毛呂山町西戸9621		
サービス種別	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員	計 18 名
	<input checked="" type="checkbox"/> 介護予防認知症対応型共同生活介護	ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	2025 年 3 月 18 日		

2. 運営推進会議開催日時・場所

日時	2025 年 2 月 18 日 10 時 0 分 ~ 11 時 0 分	場所	あったかホーム毛呂山
----	-------------------------------------	----	------------

3. 運営推進会議メンバー

区分	委員分野・主な役職等	人 数	
委員	利用者又は利用者の家族	2	人
	地域住民の代表者	4	人
	当該サービスに知見を有する者	2	人
	市の職員又は地域包括支援センターの職員	2	人
事務局	管理者	1	人
	計画作成担当者	1	人
	介護従業者		人
			人
			人

4. 事業所の特徴

ご自身で出来る事の維持に努めております。全介助が必要な方が増えて来ており意思疎通が困難な方も増えて来ておりますが、安心したサービス提供に努めております。毎月のお便りも担当職員が日常の様子等を記載しております。

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意識をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B. ほぼできている	毎年経営計画書に記載している。計画書がなければ自社の理念は言葉に出せない。	運営推進会議で話しあった内容		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	C. あまりできていない	地域とのつながりがやや行き合いが出来ていない。駐車場内から地域の方に挨拶をしている。推進会議内で地域の方との交流を行っている	認知症の時期でもあるのでなかなか難しいと思うが、芝生のところでも型にやさきそば作りしたりとか交流をしてみた。夏和団では認知症の招待をしていたがもう休止になったのでつながりがなかなか難しいですね。西戸でもコロナの影響もあり中止していたものを徐々に復活していくという声もあるがまだ難しい		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実施、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	B. ほぼできている	地域の方やご家族様からの意見を吸い上げサービス向上に活かしている	外出させてあげたい。前みたいに本人の行きたくないところへ来るようになってきたところへ行けると思う。家族としても一人だとうしていかかわらないから同行してもらえるととても安心。前のような取り組みができれば利用したいと思ういい家がなかなか出てこない。車に乗れるスタッフ、乗れないスタッフでできることが限られてしまう		
4	市町村との連携	市町村担当者と同様から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B. ほぼできている	推進会議の場で情報を共有している。外部からの連絡は基本管理者が対応をしている。	推進会議の場を活用して市町村職員さんに見学を回している		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定制度における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、互いの施設を合わせて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている	現在互いの施設の施設は行っていない。職員へは施設を行う事は身体拘束に繋がる事を周知している。		B. ほぼできている	身体拘束禁止委員会を定期的に開催し、職員間での意識の共有と情報共有ができている。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	B. ほぼできている	不適切ケアについて話し合いを行い、自分自身も同じ事をされたらなどの様な気持ちになるかを理解してもらい防止に努めている		B. ほぼできている	身体拘束に関して事例検討を実施しており、職員が議論・学ぶ環境が整えられている。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B. ほぼできている	後見人制度を活用している方の関係者から話を聞いて職員へ周知している。以前お世話になった関係者に電話で知らない事を聞いたりもしている。			

外出ボランティアなどに頼んで
外出支援することは大丈夫なの
か？役所へ相談。そういった話
を聞くこともあるが判断は難し
い

8	契約に関する説明と納得	契約の締結、契約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を懸念、十分な説明を行い理解・納得を図っている	B. ほぼできている	契約時に細かくお伝えをしている。契約変更時等の解らなく連絡があった時のもきちんとお伝えをしている。				
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ伝える機会を設け、それらを運営に反映させている	B. ほぼできている	面会時に意見や要望を述べた時になるべく早く早い対応を行っている。				B. ほぼできている
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B. ほぼできている	出来る事と出来ない事を分けて行っている。				
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B. ほぼできている	各自の意見を全て聞いてあげたいが出来る事を分けて対応をしている。				A. 充分にできている
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保し、働きながらトレーニングしていくことを進めている	C. あまりできていない	研修内に参加したいと語られる職員が少なくない。受けて欲しい研修があっても嫌がる方もいる。				B. ほぼできている
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C. あまりできていない	年に何回か会議であった時に情報共有を行っている。入居者様の面談時に外部の方と情報共有を行っている。				
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B. ほぼできている	お互いが支え合っている関係となっている。本人の出来る事、出来ない事をしっかりと見極めている。				
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている	C. あまりできていない	コロナ前に比べ、人と人との交流が激しい。				

面会の機会が今までよりは増えてきたので従妹など連れてこれている。ただ、なまじの方とあるとどこまでと話し合える。まだまだ、病院のほうでは連日二回の面会、一回15分の制限があります。馴染みの方も同じくらい年齢層になると、この質問はなかなか難しいと思う。今までの場所でも違う

代表者は管理者との情報共有に努めており、管理者は職員から受けた要望に応じて、代表者に共有することで、働きやすい職場環境となるよう取り組んでいる。推進会議も代表者が参加しており、風通しのよい社風と見受けられます。

web研修を取り入れる等、多様な研修方法を実践することで、職員を育てる取り組みを実施している。

II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B. ほぼできている	本人主体の望む生活環境に取り組んでいる。日々の声に耳を傾けている。	ふれあい計画の内容等は、プランに入れたほうがいいのでは	B. ほぼできている	書類に情報取集して課題をみつけ支援方法を説明している。そこでご理解をいただけていると思う
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B. ほぼできている	みんなで意見を話し合っってその方が安心できるケアが行える様に介護計画に落とし込み、その方を支援している。		B. ほぼできている	利用者の変化や様子について個別に記録しており、適切なケアとなるよう取り組んでいる。また運営推進会議内の報告で、利用者の様子をよく観察し適切に判断したことが伺えます。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B. ほぼできている	毎月の評価表を基にその都度見直しを行っている。		B. ほぼできている	
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	B. ほぼできている	面談時にご家族様から聞き取りを行ったり、電話連絡等で状況の変化に取り組んでいる。	知はなることお願いや相談に伺って、いろいろ支援をお伝えして定めていく。 (種類等などつける範囲は広い) 利用者様も、同じような悩みや課題を抱えているので、お話を聞かせていただくことでお力になります。また、お話を聞かせていただくことでお力になります。また、お話を聞かせていただくことでお力になります。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の方を支援しながら安全で豊かな暮らしを築くことができるよう支援している	C. あまりできていない	地域資源を把握している出向いて何かを一緒にする事までは出来ていない。	車を運転する人がいれないと言っていたので、その部分が解消されたところはいくつか。地域の活用などどういったところでしょうか。4月からボランティアの受け入れも再開しようと思っています		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	B. ほぼできている	状況によるが主治医、家族の間について関係性を維持しながら対応している			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるよう、また、できるだけ長期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	C. あまりできていない	その都度、医療関係者との連絡を行って早期の退院支援に取り組んでいる。		B. ほぼできている	運営推進会議内の報告であるように、救急搬送等に迅速に対応し、退院後も医師と情報共有を図っていると思います。病院との調整等は苦労が多いとは思いますが、引き続き、関係づくりに努めていただければと思います。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B. ほぼできている	ご家族の要望に出来る限り対応を行っている。		B. ほぼできている	その都度、利用者本人や家族との話し合いの場を設け、それぞれできる限り希望に沿った終末期のケアを実践していると思えます。

24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B. ほぼできている	初期対応は出来ているが全員が出来るわけではない。					
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけているとともに、地域との協力体制を築いている	B. ほぼできている	水害等の避難が出来ていない。避難を行う順番が決まらねない。避難所として、備蓄庫のほか、管理棟の発煙機がある。いざというときに対応できるようにさらに準備を都とえておきたいと考える					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援									
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B. ほぼできている	利用者様のケア時にはしっかりと声掛けを行っている。雑音の方には一応声をかけてから対応を行っている。					
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりの日常生活における希望や意向、華らしのペースを大切に、その日々どのようなように過ごしたいか、希望にそって支援している	B. ほぼできている	一人一人の嗜好、時間を大切にしているもらいご本人のペースに合わせてケアを心がけている。					
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	B. ほぼできている	食事の準備は利用者と一緒に出来ていないが、片付け等は一緒に出来る事が増えている。					
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B. ほぼできている	食事制限、水分制限等がある方は制限に近づけて対応している。					
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、食事後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B. ほぼできている	出来ない所は歯医者に頼っている。それ以外は毎食後行っている。					

31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のペース、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、運動の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 充分にできている	便秘時には下剤対応を行っている。水分補給等で便を出やすくしている。トイレ掃除の時間帯の把握に努めている。					
----	---------	---	-------------	--	--	--	--	--	--

年2回消防訓練を実施しており、有事の際に職員が対応できる体制ができています。今後あらゆる場面を想定した避難訓練を実施していただければと思います。

活動報告の中で、利用者の方の様子を詳細に記述されており、日頃から職員の方々が関心を持って取り組まれています。また、利用者の要望に入る際は、声かけから入居する等、利用者のプライバシーに配慮しながら対応ができています。

おやつレクの発注や、各専業者間でのおやつ作り大会を実施する等、利用者の力や食事を楽しむ工夫を日頃からされており、食事を楽しむ支援ができています。

口腔ケアは、QOLの向上の観点からも非常に重要であると思います。引き続き、利用者の方に合わせた口腔ケアに努めていただければと思います。歯科医の指導を受けている利用者もいます。歯科医の指導などのような効果がありますか？

酒造推進会議の資料だけで判断する事が難しいので、具体例等を記述してもらえればと思います。

32	入浴を楽しむことができない支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の間で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	C. あまりできていない	職員間で希望している。本人が希望する時間帯には出来ていない。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B. ほぼできている	一人一人に合った休息時間に対応をしている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B. ほぼできている	薬剤師からしっかりと説明を受けて対応をしている。			職員間で、服薬に関する情報共有に努めていると思えます。服薬に関する薬剤は、なかなかセロにすることは大変かと思えますが、引き続き、職員間での情報共有と服薬管理をお願いいたします。
35	役割、楽しみことでの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみこと、気分転換等の支援をしている	C. あまりできていない	一人一人の個性が強く役割分担が出来ない。数名の方が職員と一緒に何かを行う事が出来る。			
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるよう支援している	C. あまりできていない	車を運転できる職員が少なく外出が出来ない。家族の協力が少なく出来ていない。			運営推進会議の報告でも町の環境に利用者が参加したり、施設内でのイベントでの手伝い等したり、それぞれできる事を行い張り合いのある生活に努めていると思えます。
37	お金の所持や使うことでの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している	C. あまりできていない	今は買い物に行きたいと語られる方が減っているの出来ていない。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	C. あまりできていない	電話を希望される方が減ったので出来ていない。			

39	居心地のよい共用空間 (つくり)	建物内は一人ひとりの身体機能やわかちあいを活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快感や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている。	B. ほぼできている	平屋を活用して隣のユニットへ行かれ、一人の時間が欲しい方は居室で過ごされたりしている。	B. ほぼできている	施設内はきれいに保たれ、季節の花を置く等、利用者の方が季節を感じながら安心して過ごせる空間になっていると思います。
IV. 本人暮らしの状況把握(確認項目(利用者一人ひとりの確認項目))						
40		本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B. ほぼできている	個々が希望している生活が送れる様 に支援している。		
41	本人主体の暮らし	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けられることができている	B. ほぼできている	その方の特徴に合わせた暮らしやケアを心がけている。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けられることができている	B. ほぼできている	状況を把握してその対応を している。	B. ほぼできている	利用者の方の健康面、医療面等について状況を把握しており、必要に応じて主治医に相談して病院への受診を行っていると思います。
43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	B. ほぼできている	個性を尊重して日々対応を行 っている。		
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A. 充分にできている	必要以上な物(携帯電話)を持ったり大切な物等居室に備えたりしている。	A. 充分にできている	利用者は、家族やベットの写真を居室に飾って過ごしているとのことですので、引き続き、利用者の方が過ごしやすい空間を維持してもらえればと思います。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	C. あまりできていない	意向、希望をされる方がいないので外出は行っていない。	コロナ禍で、本人の希望で外出していないこと、できればもう少し外出したいという希望がないのでしょうか？	

46		本人は、自分ができること、できないこと、わかること、わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行なうことができている	B. ほぼできている	出来る、出来ないを踏まえているので個々の役割がある。		
----	--	--	------------	----------------------------	--	--

47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	B. ほぼできている	それぞれ相手の相性が合う方と日々の活動やそれら、職員と一緒に出来る事を行っている。	利用者の方それぞれに合った過ごし方ができるような環境を整えており、利用者の方がいきいきと過ごせる環境が保たれていると聞いています。また、室内レクリエーションも積極的に開催されており、コロナ禍でも活動機会を減らさないように努めていると思います。	B. ほぼできている	
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	C. あまりできていない	近隣、地域の方との交流が行えていない。外出支援時に挨拶程度は行っている。	地域の活動は減っている傾向にある。利用者様が困りやすいことはどんなことがあるのか？地域のお祭りも人込みを避けるようにしなければいけない。以前みたいにホームで催しをして外部の方に声をかけて交流がとれればいいのでは。キッチンカーな献呈も定期的に開催は近頃の方もあるかも		
49	総合	本人は、このOSHIにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	B. ほぼできている	職員とは親しい関係になっており冗談等も話せる関係性が出来ている。外部の方とは交流が少ない。一人一人が過ごしやすい生活の場は提供出来ている。	職員の方と親しい関係になれるのは、家業としては一喜一憂だと思います。利用者さんたちは家業のように思っている。一方で	B. ほぼできている	職員は、利用者の方が過ごしやすい空間づくりに努めており、新しい関係構築を促していると思います。今後も、利用者の方が安心、安全に生活を送れるよう、願っていただければと思います。